

第5章 グループ学習の評価, 意識調査

ここではグループ学習に対して児童生徒自身が行う目標設定や評価（自己評価や相互評価）の方法を示す。なお、教師によるグループ学習に対する評価には触れない。

1. グループ学習の自己評価

(1) グループ学習に対する児童生徒の目標設定・評価に関わる基本的な枠組み

下のようにグループの視点と個人の視点で目標設定と評価を行う。

① グループの視点

自分たちのグループが目指す学びの姿を目標として設定し、その目標にどれだけ近づいているかを話し合い評価する。

② 個人の視点

個人の視点には2つの側面がある。一つはグループ学習における個人の目標とその自己評価、もう一つは所属グループへの貢献に関わる目標とその自己評価である。

(2) 目標設定

目標は、下のように学級、グループ、個人の3つのレベルで設定する。

① 学級の目標（目指す授業像やグループ学習像） 再掲：第2章第1節（4）

協同の考えをベースにして、学級全体として目指す授業像やグループ学習像を話し合い共有し、目標やスローガンを設定する。目標の主題は「(学級の) みんな」となることを意識させて目標を考える。

協同の考え方をベースにした級訓を設けている学級では、級訓をもとに目指す授業像を話し合うとよい。なお、その場合、目標やスローガンは級訓そのものでもよいが、級訓に込めた意味を児童生徒間で話し合い、授業における具体的な活動の姿を共有することが大切である。教師の押し付けにならないよう、児童生徒の意識を大切にする。

＜例＞

みんなで取り組もう、みんなが伸びよう
みんなで励まし合い、高め合おう
みんなで力を合わせて、レベルアップしよう

＜指導例＞

□ 振り返り、目標と目的の共有化

これまでの自分たちの授業やグループ学習の状況を振り返り、よい点と改善点を話し合い、目標を設定する。

□ モデルの参照

協同的な学習を効果的に進めている授業VTRを視聴したり、モデル学級を児童生徒が参観したりして、自分達の授業をよりよくしていく上で参考にしたい点を共有し、目標を設定する。

観察の視点

自分達の授業に対する取組と比較する。

- ・グループでの関わりはどうか、どんなことに気を付けているのか。
- ・全体の話し合いでの関わりはどうか、どんなことに気を付けているのか。
- ・よい授業にするために、どんなことに気を付けているのか。

② グループの目標

グループの編成時にグループの目標を設定する。学級の目標にそって、グループメンバーの特性を考慮して目標を設定する。目標の主題は「(グループの) みんな」「私たちのグループ」となることを意識させて目標を考える。

<例>

みんなが話し合いに参加しよう

みんなで声を掛け合い、楽しく話し合おう

納得するまで話し合おう

みんなが説明できるようになろう

みんなが問題を解けるように協力し合おう

おいてきぼりのないグループになろう

自由に言い合えるグループになろう

③ 個人が設定する目標

個人が設定する目標には、グループ学習における「個人の目標」と「グループへの貢献」の2つの目標を設ける。「個人の目標」と「グループへの貢献」の目標は、グループの目標をたてるのにあわせて設定する。また、たてた目標はグループ内で共有する（誰がどんな目標をたてか）。目標は小さなことから始めればよい。

ア. 個人の目標

グループ学習において個人でがんばる目標を設定する。目標は1つか2つ決める。

注) 下のような目標の例を教師が示して考えさせてもよい。

<例>

意見を積極的に言う。

積極的に質問する。

分からないときはそのままにせず「分からない」と相手に伝える。

他のメンバーの説明をよく聴いて分かるようにする。

すぐに人を頼らないで自分でしっかり考えてから意見を言うようにする。

説明を聴いて分かったら解き直しをする。

説明を聴いて分かったら自分の言葉で説明し直す。

分かりやすい説明ができるようにする。

説明ではヒントが言えるようにする。

他の説明を聴いて、いろいろな考え方ができるようにする。

イ. グループへの貢献

グループで設定したグループ目標を達成するために一人一人が貢献することを1つか2つ決める。

注) 下のような目標の例を教師が示して考えさせてもよい。

<例> 注) それぞれの場合毎に目標を設定するのではない。

社会的スキル・対話のスキルに関する目標をたてる場合の例

アイコンタクトをする。

うなずいたり、返事をしたりして反応を返して、話す人が話しやすい雰囲気をつくる。

「わかった？」とみんなに声をかける。

発言の少ないメンバーが発言できるように声をかける。

みんなが意見を言えるように発言を促す。

課題遂行行動（話し合い）に関する目標をたてる場合の例

みんなが理解できるように、メンバーに理解しているか確認する。
話し合いが活発になるようにたくさん意見を言う。
話し合いが深まるように質問や付け足し意見を言う。
分からない子を助ける。
分からない子や間違えた子がいたら積極的に説明する。
他の人の考えのよい点を指摘する。
他の人の考えが良くなるように意見を言う。
他の子の意見に付け足し（補足）をしてよりよい意見を言う。
みんなの考えをまとめる。
いろいろな考え方を比較してよい考え方になるように意見を言う。

集団維持行動に関する目標をたてる場合の例

みんなが話し合いに参加できるよう進め方を調整する。
がんばっている子を励ます。
みんなが参加できるよう楽しい雰囲気づくりをする。

ウ. 目標のグループ内共有

グループ学習における個人目標とグループへの貢献事項について、グループ内で共有し、後述する評価表に整理しておく。

(3) 評価

評価は個人自己評価（「個人の目標」に対する自己評価、「グループへの貢献」に対する自己評価）、グループ自己評価、グループ内相互評価、学級全体の評価の4つの側面がある。

グループ内相互評価は肯定的なフィードバックを受けることができるよう配慮する。

① 個人自己評価

ア. 個人の目標に対する自己評価

自分がたてた「個人の目標」に対して達成度を自己評価する。
評価に際しては、数値化、例えば、5段階（1, 2, 3, 4, 5）で評価し、評価表に記入する。
その点数をつけたコメントを記入する。

イ. グループへの貢献に対する自己評価

自分がたてた「グループへの貢献」に対して達成度を自己評価する。
評価に際しては、数値化、例えば、5段階（1, 2, 3, 4, 5）で評価し、評価表に記入する。
その点数をつけたコメントを記入する。

ウ. 評価の時期・期間

グループ学習の時間を十分に確保した授業後に評価する。
評価に際しては評価表に記入し、累積していく。

エ. 個人目標の評価表の例

＜グループ評価の評価表 個人用＞

班・メンバー	個人の目標		グループへ貢献すること	
班 氏名				
月 日	点		点	
月 日	点		点	
月 日	点		点	
	点		点	

＜グループ評価の評価表 個人用 記入例＞

班・メンバー	個人の目標		グループへ貢献すること	
4 班 氏名 山田花子	積極的に意見を言う。		分からない子に積極的に説明する。	
7 月 3 日	点 2	意見があったが言えなかった。	点 2	○さんに確認を取りながら説明したら○さんがわかったと思う。
7 月 10 日	点 4	今日は付け足し意見がたくさん言えた。	点 5	自分の説明で○さんが分かってくれてよかった。
7 月 14 日	点		点	

② グループ自己評価

ア. 評価の方法

グループの目標に照らして、グループの達成状況を点数化（例えば 5 段階）し、よくできたこと、今後よくすることをメンバーで話し合い、評価表に記述する。

話し合いでは、(4)で示すようにメンバーに肯定的なフィードバックを与えるようにする。

イ. 評価の時期・期間

グループの編成期間に応じて、期間内に数回実施する。例えばグループの期間が 2 か月の場合は 2 週間で 1 回程度実施する。グループ意識を高めたい場合は評価回数を多くする（1 週間に 1 回）場合もある。

ウ. グループ目標の評価表の例

班・メンバー		グループの目標	
班			
メンバー		個人の目標	グループへ貢献すること
月 日	点	できていること	
		よくすること	
月 日	点	できていること	
		よくすること	
月 日	点	できていること	
		よくすること	

<記入例>

班・メンバー		グループの目標	
4 班		全員が説明できるようになろう	
メンバー		個人の目標	グループへ貢献すること
山田 花子		積極的に意見を言う。	分からない子に積極的に説明する。
6 月 1 日	点	できていること	
	2	Aさんと、Bさんがよく意見を言ってくれるおかげで少しずつ説明できるようになった。	
		よくすること	
		CさんやDさんに「わかった？」と声をかけるようにして、みんなが説	

		明できるようにする。
6月15日	点	できていること Cさんが自分から説明をしてくれるようになった。
	3	よくすること Dさんが説明できるようにみんなでがんばろう。
6月30日	点	できていること Dさんが説明するときに他の人が励ますようになった。
	4	よくすること 説明できるようになったので全体場で発表しよう。
7月1日	点	できていること
		よくすること

④ グループ内相互評価

ア. 評価の時期

グループ内の互恵的な意識を高めるために、「個人自己評価」と「グループ自己評価」を行う際に、メンバー間で相互評価をする。

イ. 方法

相互評価は声を掛け合う活動として、その際に、相手に肯定的なフィードバック（Johnson・Johnson, 1996 石田訳 2016）を与える（メンバー間で肯定的なフィードバックの言葉を交わす）ようにする。

◆ ポイント

- 小さなことでも頑張っていることを認めて伝え合う。
- 感謝していることを伝え合う。
- 本人が気付いていないが、がんばっていることやグループに貢献していることがあればそのことを伝え合う。

□ 肯定的なフィードバックで用いる言い方

- ・〇さん（名前を言う）は～をがんばっていてすごいね。
- ・〇さんは～をしてくれるので感謝しています／～してくれてありがとう。
- ・〇さんが～してくれることがグループのためになりました。
- ・〇さんは～できなかったけれど、～してくれたのでおかげで私は～できました。

□ 肯定的なフィードバックの言葉の例

・個人自己評価を付けるとき

- 「〇さん、今日は分からないとたくさん言えてすごいね」
- 「△さん、今日は△さんの意見がわかりやすかったよ。おかでよくわかったよ」
- 「〇さん、今日は分からないとあまり言えなかったね。私が「わかった？」と聞けばよかったね」
- 「△さん、説明があまりできなかったみたいだけど、いいことを考えていたから今度説明してね」
- 「□さん、個人評価が下がっているけれど、いい意見をいつているよ」
- 「△さん、個人評価がだんだんよくなっているな」

・グループ自己評価を付けるとき

「〇さんが良く意見を言ってくれるおかげで、グループのポイントがあがったよ」

「〇さんがグループの雰囲気をよくしてくれて感謝しています」

「私が分からなときに、〇さんが「わかる?」「大丈夫?」と声をかけてくれるので、安心して分からないと言えます」

「〇さんは、意見が少ないけどその分、みんなの意見をしっかり聴いているね。私も話しやすいよ」

⑤ 学級の目標に対する評価

ア. 評価の時期

グループ評価を実施した時期にあわせて行う。

イ. 方法

各グループが行ったグループ自己評価結果（達成したこと、改善すること）を総括させて、学級全体で発表し合う。次に、グループ自己評価結果を総括して、学級全体として達成していることは何か、改善していくことは何かを具体的な活動の姿で話し合う。その結果もとに、次の学級の目標を設定する。

(4) その他 Tチャートの活用

目標を具体的に意識し、行動化できる方法として、Tチャート（Johnson・Johnson, 1996 石田訳 2016）による方法がある。Tチャートは下のように「しぐさ・行動（非言語的）」とそれに対応して「言葉・言い回し（言語的）」を記述する。Tチャートは目標設定に際して、教師が目標に対する具体的な行動や言い方を指導する際に活用するとよい。

＜説明することに関するTチャートの例＞

Tチャート	
しぐさ・行動（非言語的）	ことば・言い回し（言語的）
相手の目を見る	説明してくれる？
身を乗り出す	やって見せて？
興味深そうな表情をする	どうやってするか説明して
受容的な態度・姿勢をとる	どうやったらその答えになるの？
	例を見せて

個人の評価

No. _____

班・メンバー	個人の目標		グループへ貢献すること	
班 氏名				
月 日	点		点	
月 日	点		点	
月 日	点		点	
月 日	点		点	
月 日	点		点	
月 日	点		点	
月 日	点		点	

グループの評価

No. _____

班・メンバー		グループの目標	
班			
メンバー		個人の目標	グループへ貢献すること
月 日	点	できていること	
		よくすること	
月 日	点	できていること	
		よくすること	
月 日	点	できていること	
		よくすること	
月 日	点	できていること	
		よくすること	

月 日	点	できていること
		よくすること
月 日	点	できていること
		よくすること
月 日	点	できていること
		よくすること
月 日	点	できていること
		よくすること
月 日	点	できていること
		よくすること

2. グループ学習に対する児童生徒の意識調査

(1) 理論的背景

協同学習における尺度の代表的な研究として、長濱・安永・関田ら(2009)と中西・中島・大道ら(2014)がある。

長濱ら(2009)は、協同作業に対する認識を測定する尺度を開発した。この尺度は大学生を研究対象に検討されたものであり、学生の協同作業に対する認識を測定するために「協同効用」「個人志向」「互恵懸念」の3因子18項目から構成される。

中西ら(2014)は協同学習場面における学習者の社会的動機づけを測定する尺度を開発した。この尺度は大学生を研究対象にして検討されたものであり、学生の協同学習に対する社会的動機づけを測定するために「他者からの触発による動機づけ」「他者援助動機」「メンバーからの被評価動機」「メンバーからの被嫌悪回避動機」「グループに対する被評価動機」「他者からの知識影響に対する動機」の6因子27項目から構成される。

これら2つの尺度を用いることで、学習者は協同学習に対してどのような認識をもっているのか、また、協同学習に対する動機づけはどのようなものかを測定することができ、協同学習の導入法や指導法の工夫・改善や、協同学習の成果として期待される協同作業に関する認識の変化の測定に活用できる(長濱ら, 2009, p.33)。しかし、これら2つの尺度は、どちらも大学講義における協同学習を念頭に置いた大学生向けのものであり、項目で記述されている用語は小中学生では難しいものがある。また、項目によってはニュアンスが似ているために小中学生では同じ項目と考えてしまうものがある。さらに、項目数が多いため小中学生には負担である。そこで、長濱ら(2009)と中西ら(2014)の尺度を小中学生向けの表現に変更するとともに、項目を精選する必要がある。

(2) 小中学生用協同的なグループ学習の尺度の枠組み

協同的なグループ学習を測定する視点として、「協同的なグループ学習に対する認識」(長濱ら, 2009)と「協同的なグループ学習に対する動機づけ」(中西ら, 2014)の2つの視点を設ける。さらに、協同的なグループ学習においては、分からない、つまりいたメンバーへの援助提供や援助要請が行われることが多いことから、援助要請・提供に関わる項目を新たに追加する。

「協同的なグループ学習に対する認識」の項目は、長濱ら(2009)の18項目のうち信頼性を考慮して選定し8項目とした。なお、「互恵懸念」の項目は学級経営に影響することが懸念されるため用いないことにした。「協同的なグループ学習に対する動機づけ」の項目は、中西ら(2014)の6因子から信頼性を考慮して1つずつ選定し6項目とした。どちらの項目も表現を小中学生用に改めた。また、「援助要請・提供」の項目は2項目を設け、合計9因子16項目から成る。

(3) 回答方法

項目を質問紙にして、「まったくそう思わない:1」「あまりそう思わない:2」「どちらともいえない:3」「ややそう思う:4」「とてもそう思う:5」の5件法で回答を求める。

(4) 採点方法

5件法の解答番号1~5を得点として換算する。合計得点が高い程グループ学習に対する意識が高いと判断できる。ただし、質問項目に負の要因の項目がある場合はその得点を減じて合計得点を算出する。

(5) 実施学年

調査対象は小学生と中学生用であるが、小学校では3年生以上から可能であると思われる。ただし、3年生では教師が回答の仕方を丁寧に説明する必要があると思われる。

尺度項目（調査項目）

注）丸数字の項目が調査項目である。項目は通番にしてある。負の要因の項目（負項目）には*を記している。負項目を入れたのは回答の信頼性を見るためである。なお、質問項目は指導状況や学級の実態に応じて加除修正すればよい。

1. 協同的なグループ学習に対する認識の項目

(1) 協同効用に関わる項目

- ① 難しい問題もグループのみんなとやればできる気がする
- ② グループのみんなでいろいろな意見を出し合うことはためになる
- ③ グループの他の人の意見を聞くことは自分のためになる
- ④ 一人でやるより、グループで協力した方がよい成果が得られる
- ⑤ グループのために自分が貢献することは楽しい

(2) 個人志向に関わる項目

- ⑥ グループでやるより一人でやる方がやりがいはある*（負項目）
- ⑦ グループで一緒に活動すると自分の思うようにできない*（負項目）
- ⑧ グループでやると必ずしっかりやらない人がでてくる*（負項目）

2. グループ学習に取り組む動機の項目

(1) 他者からの触発による動機付け

- ⑨ グループのメンバーが頑張っている姿をみて自分も頑張ろうと思う

(2) 他者援助動機

- ⑩ グループの人が困っていたら助けたいと思う

(3) メンバーからの被評価動機

- ⑪ グループのメンバーから頼られたいと思う

(4) メンバーからの被嫌悪回避動機

- ⑫ メンバーに嫌われたくないから協力しようと思う*（負項目）

(5) グループに対する被評価動機

- ⑬ グループとしてよい成果を出したいからがんばりたいと思う

(6) 他者からの知識影響に対する動機

- ⑭ グループの話し合いで自分と違う考えを知ることができるからがんばりたいと思う

3. 援助要請・提供の意識

- ⑮ グループの仲間が教えてくれると、私はうれしい気持ちになる
- ⑯ わからない子が私の説明を聞いてわかってくれると、うれしい気持ちになる

<採点方法の例>

1, 2, 3 の項目別に採点して傾向をみる場合や 1～3 の合計得点を算出して総括的にみる場合がある。合計得点を出す場合、負項目（問題番号⑥, ⑦, ⑧, ⑫）の得点を減ずる。

総括得点＝（正項目の合計点）－（負項目の合計点）

例えば、上の①～⑯の場合の満点は（正項目 12×5 点）－（負項目 4×1 点）＝56 点である。

小学校用 グループ^{がくしゅう}学習のアンケート

調査日 月 日

年	組	番号	名 前（なまえ）	自分のグループ （班）の番号

グループ^{がくしゅう}学習のアンケートをします。このアンケートは授業^{じゅぎょう}をよくしていくための参考とします。
下の質問^{しつもん}に対して「まったくそう^{おも}わない：1」「あまりそう^{おも}わない：2」「どちらともいえない：3」
「ややそう^{おも}う：4」「とてもそう思う：5」の中であてはまる数字^{すうじ}を○でかこんでください。

1. グループで^{まな}学^いぶ意識

① むずかしい問題^{もんだい}もグループのみんなとやればできる^き気がする

まったくそう^{おも}わない あまりとそう^{おも}わない どちらともいえない ややそう^{おも}う とてもそう^{おも}う
1 2 3 4 5

② グループのみんなでいろいろな意見^{いけん}を出^だし合^あうことはためになる

まったくそう^{おも}わない あまりとそう^{おも}わない どちらともいえない ややそう^{おも}う とてもそう^{おも}う
1 2 3 4 5

③ グループの他^{ほか}の^{ひと}人の意見^{いけん}をきくことは自分^{じぶん}のためになる

まったくそう^{おも}わない あまりとそう^{おも}わない どちらともいえない ややそう^{おも}う とてもそう^{おも}う
1 2 3 4 5

④ 一人^{ひとり}でやるより、グループで協力^{きょうりょく}した方^{ほう}がよい成果^{せいこ}がえられる

まったくそう^{おも}わない あまりとそう^{おも}わない どちらともいえない ややそう^{おも}う とてもそう^{おも}う
1 2 3 4 5

⑤ グループのために自分^{じぶん}が役^{やく}にたつことは楽^{たの}しい

まったくそう^{おも}わない あまりとそう^{おも}わない どちらともいえない ややそう^{おも}う とてもそう^{おも}う
1 2 3 4 5

⑥ グループでやるより一人^{ひとり}でやる方^{ほう}がやりがいはある

まったくそう^{おも}わない あまりとそう^{おも}わない どちらともいえない ややそう^{おも}う とてもそう^{おも}う
1 2 3 4 5

⑦ グループでいっしょに活動^{かつどう}すると自分^{じぶん}の思^{おも}うようにできない

まったくそう^{おも}わない あまりとそう^{おも}わない どちらともいえない ややそう^{おも}う とてもそう^{おも}う

1 2 3 4 5

⑧ グループでやると 必^{かなら}ずしっかりやらない人^{ひと}がでてくる

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う

1 2 3 4 5

2. グループ^{がくしゅう} 学習^と に 取^く り 組^{いし} む 意^き 識

⑨ グループのメンバーががんばっている 姿^{すがた} を 見^み て 自^じ 分^{ぶん} もががんばろうと 思^{おも} う

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う

1 2 3 4 5

⑩ グループの人がこまっていたら 助^{たす} けたいと 思^{おも} う

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う

1 2 3 4 5

⑪ グループのメンバーからたよられたいと 思^{おも} う

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う

1 2 3 4 5

⑫ メンバーにきらわれたくないから 協^{きょうりょく} 力^{りき} しようと 思^{おも} う

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う

1 2 3 4 5

⑬ グループとしてよい 成^{せい} 果^か を 出^だ したいからがんばりたいと 思^{おも} う

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う

1 2 3 4 5

⑭ グループの 話^{はな} し 合^あ いで 自^じ 分^{ぶん} とちがう 考^{かんが} えを 知^し ることができるからがんばりたいと 思^{おも} う

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う

1 2 3 4 5

3. 教^{おし} え 合^{あい} いの 意^{いし} 識^き

⑮ グループのなかまが 教^{おし} えてくれると、わたしはうれしい 気^き 持^も ちになる

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う

1 2 3 4 5

⑯ わからない子がわたしの 説^{せつめい} 明^{めい} を 聞^き いて、わかってくれるとうれしい 気^き 持^も ちになる

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う

1 2 3 4 5

中学校用 グループ学習のアンケート

調査日 月 日

年	組	番号	名 前（なまえ）	自分のグループ （班）の番号

グループ学習のアンケートをします。このアンケートは授業をよくしていくための参考とします。
下の質問に対して「まったくそう思わない：1」「あまりそう思わない：2」「どちらともいえない：3」
「ややそう思う：4」「とてもそう思う：5」の中であてはまる数字を○でかこんでください。

1. グループで学ぶ意識

- ① 難しい問題もグループのみんなとやればできる気がする

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う
1 2 3 4 5

- ② グループのみんなでいろいろな意見を出し合うことはためになる

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う
1 2 3 4 5

- ③ グループの他の人の意見を聞くことは自分のためになる

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う
1 2 3 4 5

- ④ 一人でやるより、グループで協力した方がよい成果がえられる

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う
1 2 3 4 5

- ⑤ グループのために自分が貢献することは楽しい

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う
1 2 3 4 5

- ⑥ グループでやるより一人でやる方がやりがいはある

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う
1 2 3 4 5

- ⑦ グループで一緒に活動すると自分の思うようにできない

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う
1 2 3 4 5

- ⑧ グループでやると ^{かなら}必ず ^{ひと}しっかりやらない人がでてくる

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う
1 2 3 4 5

2. グループ ^{がくしゅう}学習 ^とに ^く取 ^い組 ^しむ ^い意識

- ⑨ グループのメンバーが ^{がんば}頑張 ^{すがた}っている ^み姿 ^を見 ^て自分も頑張ろうと思う

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う
1 2 3 4 5

- ⑩ グループの人が ^{こま}困 ^{たす}っていたら ^{たす}助 ^けたいと思う

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う
1 2 3 4 5

- ⑪ グループのメンバーから ^{たよ}頼 ^{られ}たいと思う

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う
1 2 3 4 5

- ⑫ メンバーに ^{きら}嫌 ^われたくないから ^{きょうりよく}協力 ^{おも}しようと思う

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う
1 2 3 4 5

- ⑬ グループとしてよい成果を ^だ出 ^{した}いから ^だがんば ^{りたい}と思う

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う
1 2 3 4 5

- ⑭ グループの ^{はな}話 ^あし ^あ合 ^{かんが}いで自分と違 ^しう ^し考 ^えを ^し知 ^ることができるから ^だがんば ^{りたい}と思う

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う
1 2 3 4 5

3. 教 ^{おし}え ^あ合 ^いの意識

- ⑮ グループの ^{なかま}仲間 ^{おし}が ^{おし}教 ^えてくれると、私はうれしい気持ちになる

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う
1 2 3 4 5

- ⑯ わからない子が私の ^{せつめい}説明 ^を聞いて、わかってくれるとうれしい気持ちになる

まったくそう思わない あまりとそう思わない どちらともいえない ややそう思う とてもそう思う
1 2 3 4 5